

小児医療・療育の現場で働く心理職のための ミニマルエッセンス

近年、小児医療・療育を利用する子どもとその家族にとって、身体的な改善のみならず、心理・社会的な支援の重要性が増し、子どものこころ専門医制度など、よりよいサービスの提供に向けて、さまざまな改革がすすめられています。本書は、まずは、現場で初めて働く心理職を想定し、現場に出る前に基本的に身につけておきたい「知識」「技術」「態度」を整理して伝えるテキストとして企画しました。

その特色としては、

- 1) 知識を網羅的に示すのではなく、まず身につけておきたい、重要なポイント、心得をわかりやすく示す。
- 2) 現場でさまざまな問題に取り組むときに参考となる図書、教科書・テキスト、ホームページなどを掲載し、勤務が始まってからも活用でき、その後の自己研鑽、問題解決に結びつく情報の入り口を示す。
- 3) 小児医療・療育の現場で、施設内外のさまざまな専門家とのチーム、協働を意識した内容とする。

また、心理職だけではなく、本学会会員が小児医療・療育において心理・社会的支援を実践するうえでも役に立つ内容になることを目指して、学会機関誌の特別企画(増刊号)と位置づけました。

終わりのない研鑽の道の入り口として、この本がお役に立てば幸いです。 (まえがきより抜粋)

〈目次〉

発刊によせて	5	第4章 病気に関する知識	
まえがき	6	1. 小児科学に関すること	95
第1章 はじめに		2. 児童精神医学の基礎知識	97
1. 現場で働く心構え	9	3. 産科学・周産期医学に関すること	99
2. 医療安全	12	4. 母子保健学に関すること	100
第2章 小児医療・療育の職場はどんなところ?		5. DSMとICD	101
1. 小児医療・療育施設の種類と概要	17	第5章 薬に関する知識	105
2. 連携・協働する機会の多い専門職	19	第6章 病気の理解と支援	
3. 診療	21	1. 慢性疾病の理解と支援	109
4. カルテ・診療記録	27	2. 発達特性の理解と支援	111
5. 母子保健	30	3. 虐待の理解と支援	115
6. 健康保険制度・保険点数のしくみ	32	4. 周産期の臨床の理解と支援	117
7. 社会福祉のしくみ	35	5. 心身症の理解と支援	120
8. 子どもを守る制度・法律	37	6. 小児がんの理解と支援	123
9. 子どもの権利～小児医療の現場から～	43	7. 神経疾患の理解と支援	125
10. 倫理の考え方	47	第7章 連携・協働	
11. 包括的理解	49	1. 院内の連携・協働	131
第3章 心理職の主な業務		2. 地域との連携・協働	133
1. 総論：小児医療と療育における心理職	53	3. 移行期支援	139
2. 小児医療における心理職	56	第8章 研究	
3. 療育における心理職	62	1. 現場に役立つ研究の実施	143
4. 心理アセスメント	68	2. 研究成果を現場に活用すること	146
5. 心理的支援の方法	78	第9章 公認心理師の養成	151
6. スタッフとしての役割	89	おわりに	155

●定価：本体3,500円＋税 ●A4判 160頁
●ISSN 0559-9040